日本歯科医史学会々誌・第31巻
第1号通巻118号・平成27年3月

東北地方の民話・昔話・伝説に見られた病気治療例の収集と分析
—第二報：宮城県，山形県，福島県—[*1]

医療法人社団歯周会西堀歯科・豊田歯科　鈴木長明[*2]

要旨：宮城県，山形県，福島県の民話，昔話，伝説を資料として，病気治療例を収集し分析した．収集できた症例は77例であった．病人あるいは悩める人のうち一般人は38例であった．症状あるいは悩みは75例で，らい病による口と唇の症状が含まれた．効果がなかった治療歴は31例で，医者の治療が14例でもっとも多かった．治療担当者あるいは相談者では，僧侶や巫女をはじめとした宗教等関連者が24例，一般人が23例，医療関係者が5例であった．診断法あるいは本人の願い成就法は26例で祈祷が19例であった．病気の原因あるいは病名は26例で祟りと呪いが13例を占めた．治療法では医学的療法が37例，宗教的療法が24例であった．治療効果は成功例が48例，死亡例が1例であった．

以上の結果より，現代のように進歩した医療技術が存在せず，医療担当者の数も少なく，健康保険制度も確立していなかった時代においては，病気の際，医者の代わりに僧侶や巫女をはじめとした宗教等関連者を頼りにしていたことが明らかになった．

キーワーズ：東北地方，民話，昔話，伝説，民間療法

Abstract：Seventy seven cases of the treatment of disease described in the folklore, old tale and legend of Miyagi, Yamagata and Akita prefectures in the Tohoku region were collected and analyzed. In the number of sick or people with trouble ordinary person were 38 cases. Seventy five cases of symptoms or troubles were revealed. A case showed the symptoms with leprosy in the mouth and lips. In the previous medical histories non-effective cases were 31 cases. Fourteen cases were treated by doctors without effect. Caregivers or consulters were 24 religious people including Buddhist and Miko, 23 ordinary people and 5 medical personnel. In the diagnosis or wish fulfillment methods prayer was applied in 19 of 26 cases. In the etiology or the name of diseases curse was found in 13 of 26 cases. In the therapeutic methods there were 37 medical methods and 24 religious methods. In the therapeutic effect successful cases were 48 cases and fatal case was 1 case.

It was revealed that in the era without advanced medical technologies, with few medical personnel and without health insurance system, when people were sick, they replied on religious people instead of doctors.

Key words：Tohoku Region, Folklore, Old Tale, Legend, Folk Remedies

はじめに

現代のように進歩した医療技術が存在せず，医療担当者の数も少なく，健康保険制度も確立していなかった時代において，人々は病気の際，さま

[*1] Collection and Analysis of Medical Cases Described in the Folklore, Old Tale and Legend of the Tohoku Region—Part 2：Miyagi, Yamagata and Fukushima Prefectures

[*2] Nagaaki Suzuki, Nishibori Dental Office and Toyoda Dental Office

ざまな民間療法を工夫し対処してきた.

そこで前回は,北部の東北地方に属する青森県,岩手県,秋田県の民話,昔話,伝説を資料として用い,具体的な病気治療例を収集し,その内容の分析を試みた.その結果,治療担当者あるいは相談者としては,本人を含む一般人が最も多く,巫女をはじめとした宗教等関連者の活躍が目立った[1].

一方,東北地方の南部に属する宮城県,山形県,福島県においてもこれまで民間療法に関する研究がなされてきた[2].そこで今回は前回と同様の方法を用いて具体的な病気治療例を収集しその内容を分析することにした.

方　法

宮城県,山形県,福島県における民話・昔話・伝説について記述された書籍のうち以下の書籍を資料として用いた.

民話では,未来社発行の「日本の民話 2, 3, 4, 別巻」,ぎょうせい発行の「新装日本の民話　東北(一),(二)」,研秀出版発行の「日本の民話第2巻・東北Ⅱ」,一声社発行の「遠藤登志子の語り」を用いた.

昔話では,岩崎美術社発行の全国昔話資料集成の「羽前小国昔話集」,「真室川昔話集」,「庄内昔話集」,「陸前昔話集」,「陸前伊具昔話集」,三省堂発行の日本昔話記録の「福島県磐城地方昔話集」,日本放送出版協会発行の「羽前の昔話」を用いた.

伝説では,角川書店発行の「出羽の伝説」,「宮城の伝説」,「福島の伝説」,みずうみ書房発行の「日本伝説大系第二巻中奥羽,第三巻南奥羽・越後」,山田書院発行の「日本の伝説2東北」を用いた.

結　果

宮城県で26例,山形県で26例,福島県で25例,合計77例収集した.

Ⅰ. 収集した症例の要旨

1. 宮城県

<民　話>

1) 母親が長いあいだ病気をわずらっていた.姉のオイセと弟のチョーセは山で柴を刈り,それを売って米や薬を買っていた.ある日オイセは沢の奥で水を一口飲んだら,つかれがけろっと治った.オイセは次の日,沢の奥から水をくんできて,母親に飲ませた.すると毎日飲むうちに一枚一枚紙をはがすように病気が治った[3].

2) 長者のむすこは,婆さま皮を着てきたなく見せて下働きをしていた女の部屋の前を通りかかった.そこで風呂から上がって婆さま皮を脱いだ娘のうつくしさにびっくりして病気になった.長者は心配して巫女をよんでうらなってもらった.巫女は,この家の中にいる娘を嫁にもらえばよくなると言った.むすこはあのきたない婆さまがほしいと答えた.その夜,親たちはそっと障子からのぞいてみると,あまりにもうつくしいのでびっくりし,嫁にもらうことにした[3].

3) お爺さんとお婆さんが二階から落ちてあばら骨を痛めた.医者に勧められた奥の深山の山椒の実を一服飲ませたところ治った[3].

4) 梅田龍沢先生は第一等の産科のお医者さんで,部屋に寝ていた二十歳くらいの娘の手をとって,まず脈をみた.娘は顔をゆがめて,うんとうなりだした.先生は手際よく支度にかかった.やがて男のふたごが生まれた[4].

5) 名取長者は跡をつぐ子供がなく,日頃信心する那智権現の宮におこもりして,子供を一人授けてくださいとお願いした.

満願の日,権現があらわれ三年のうちに一子を授けるとお告げをうけた.その後女の子が生まれた[5].

6) 照井長者は子供が生まれても13歳になるとみな死んでしまった.いろいろ加持祈祷をしても効き目がなかった.

黒石寺の和尚さんに教えられてとり子をしてもらった.そこで13歳になる前に,男の子を寺入りさせて小僧に仕立て,村では死んだことにして葬式をいとなんだ.そして一度小僧になったのを,翌年実家にむかえて育て,難をのがれた[5].

7) 与次兵衛の継母はらい病になった.手足の自由も失われ,口がゆがみ,唇ただれ,人目もあてられぬみにくい姿となり,大小便はもとより,食事も自分でとれないようになった.与次兵衛はもっぱら継母への奉養,看病につとめた[5].

8） 長者の一人息子の新徳丸は婚礼間近に奇病になり，体の節々からダラダラ膿が流れた．許嫁の娘さんは，病気を治してくださいと，村の八幡様へ丑の時参りに七夜通った．満願の日に，枕神に立たれ，後家母が，新徳丸の姿を書いて鹿島様の樫の木に釘で打ち付けたのでその釘を抜けば治ると言われた．釘を抜いたらたちまち治った[6]．

9） 正直な夫婦者は子供が授からないので，さまざまな薬を飲んでみたが効き目がなかった．

八卦置に占ってもらったら，ご先祖さまの業の報いだから観音さまにおすがりするのがいちばんだと言われた．近くの観音さまに21日の願がけをしたところ満願の日に観音さまが現れて，いまに願いがかなうと言われた．それから間もなく身ごもり女の子が生まれた[7]．

＜昔　話＞

1） 阿波の国に行って雀追いをしていた小夜姫のお母っつぁんは，人伝いに娘が大蛇の身年貢に上げられたときいてうんと泣いたため目が見えなくなった．筑紫から尋ねて来た小夜姫はお母っつぁんを見つけて，泣きながらお経を唱えて，お母っつぁんの目を撫でたらパッと開いた[8]．

2） 三人息子の父親が重い病気で寝たきりであった．なら梨を食べないと治らないということで，息子の三郎は山を三つ越え，青鬼，赤鬼と戦いながらなら梨をもいだ．その梨を父親に食べさせたところ病気はたちまち治った[8]．

3） 兄は夜叉面の娘に呑みこまれたが，弟が刀を抜いて娘の腹から出した．弟は蓬をむしり取って煎じて飲ませ，三日三晩寝ないで看病したところ兄は生き返った．これから艾でお灸をするようになったということである[8]．

4） 庄屋の一人娘が死んでしまった．ほら吹き息子は鬼から盗んだ長い針で娘の鼻先をツクッと刺したら「う，うーん」て息を吹き返した[8]．

5） 竜宮の乙姫様が病気になって，ありとあらゆる療治をしたけれども，さっぱり良くならなかった．祈祷師に拝んで貰ったら，猿の生き肝を食べれば力がついて治ると言われた[8]．

6） ある金持ちの娘が日増しに痩せ細っていった．両親は心配して医者という医者に診て貰ったけれども，病気の原因がわからなかった．神主さんに拝んでもらったら，何かの祟りだから見届けてやると言われた．怪猫の仕業であった[8]．

7） 稼ぎ嫌いな男が八卦見のふりをして立派な構えの家で案内を乞うた．家では娘が明日をも知れぬ大病で，医者に見せても少しも験がない．よいところに八卦見が来た，占ってもらおうということになった．娘の病気はらい病のため山に棄てられた兄の恨みで，兄は男に殺され，娘の病気は一枚紙を剝ぐようによくなった[9]．

8） 家老は家人たちとどじょう汁を食べたところみんな枕をならべて寝込んだ．何かの祟りではないかとワカ（巫女）さんに拝んでもらった．祭壇に向かって唱え言をしていたワカさんに，何かが乗り移って，自分は何年か前にみじめな思いをさせられた蛇の霊で，その仇はきっととってやると語った．この話を聞いた良聖法師が祈祷と呪いをあげたところ，病人は生命をとりとめた[9]．

＜伝　説＞

1） 孝謙天皇がご病気の時，陰陽師に東国に茂る杉の大木の精の禍であると告げられた．築館にある大木を伐り倒したところ病気は快癒した[10]．

2） 長く住み着いた旅人は村人が病気になると，尋ねては痛いところをやさしく撫でて，「ポーポー」と息をかけて治してくれた[10]．

3） 義経の北の方が腹痛を訴えた．投薬しても落ち着かなかった．そこへ山鳩がイカリ草をくわえて飛んできて口移しにふくませたところたちまち気分爽快になった[10]．

4） 炭焼きの女房が難産で苦しんでいた．弁慶は栗の木で錫杖を作って呪文を唱え，観世音菩薩に祈願して，無事出産させた[10]．

5） 白拍子のしずはたは病の床につき，熱にうなされ，医師もあすあさっての命と診断した．医王山薬師寺の権僧都に治癒の修法を請うと薬師如来の霊験によりたちまち恢復した[10]．

6） 某家では娘が病気で長い間床についていた．病気は神仏に願っても，医者にみせてもよくならなかった．婿をさがすことになり，その家の火焚き男がよいというので婿にすると娘の病気

は次第によくなりやがて回復した[11].

7） 久作という評判の正直者が眼病で両眼失明した．白髪の老人であった常陸坊海尊が来て，丑の刻に身を浄めて天を拝むがよいと言った．毎夜天を拝すること三十余日で全快した[11].

8） 公卿の一人娘が大病を患って死ぬばかりになった．飼っていた猿が差し出した2粒の南天の実のようなものを飲ませたところたちどころに治った[11].

9） 帰農した金子弥右衛門の女房が身ごもり，力のつよい丈夫な男の子がほしいと思った．陸奥国分寺の仁王尊にお百度参りをしたところ大きな男の子が生まれた[12].

2．山形県

＜民　話＞

1） 小野小町という美しい娘は旅の疲れで病気となった．三州峯の薬師さまにお祈りすると，7日目にお告げがあり，出羽の国の吾妻川のほとりにある出湯で湯治をすれば治ると言われた．21日間この出湯に入っているうちに病気はすっかり治った[13].

2） 欲の深い男は床屋へ行く金がおしくて，いつもとなりのおやじにそってもらっていた．ある日のこと，おやじは手をすべらせて二寸ほど切ってしまった．傷は痛み三日三夜ねむることができなかったが，医者にもかからずがまんしているうちに痛みはなくなった[13].

3） 京の公卿のお姫さまが病となり，いろいろ手をつくしたが明日とも知れない命となった．飼っていた猿が持ってきた赤い実を飲ませたらたちまちよくなった[13].

4） 茂治兵衛という男が近くの川でとった魚を食べ，腹の中に虫がわいて倒れた．惣太という若者がその沼からとったどじょうを，弘法大師に書いていただいた観音さまに供えてお願いしたところたちまちなおった[13].

5） 母は風邪から枕もあがらぬ大病になった．二人の兄弟は医者をつれてきたり，高い薬を飲ませたがよくならなかった．親切な村の人が，ならん山の梨をとってきて，その皮を煎じて飲ませるとよいと教えてくれた．その梨の実を母に食べさせたところ，うす紙をはぐようによくなった[13].

6） 娘は昼間は姥皮をかぶって火焚き婆ぁのかっこうをしていたが，夜は化粧をして部屋で勉強していた．長者の息子はそれを見て恋の病になり何も飲み食いしなくなった．医者に頼んでもよくならなかった．占いに行って占ってもらったところ，家内に一緒になりたい人がいて病んでいるので，その人に水を飲ませてもらえばよいと言われた．息子は姥皮をかぶった娘が汲んだ水をおいしそうに飲み，その後花嫁に迎えた[14].

7） 母親が病気になった．八卦おき（占い師）に聞きに行ったら，算をおいて，この山の奥の大きな沼の岸にある太い桃の木の桃を食べさせると治ると言った．三人の子供が桃をもいできて，母親に食べさせたところ，病気は一枚紙をはぐようによくなった[7].

＜昔　話＞

1） きれいな姉様が足を痛めて難儀していた．貧乏な若者は結わえて繋いだ[15].

2） 貧乏な爺様と婆様には子供がなかった．水神様に願いをかけたところ，水神様は婆様の夢頭に立って，子供を授けるから大事にするようにと申した．婆様は孕んで小さな田螺の子を生んだ[15].

3） 爺様は子供に恵まれなかった．山の神におぼこを授けて下さいと願かけした．山の神は，木の股から男のおぼこを授けてくれた[15].

4） 朝日長者の娘が死んでお通夜をしていた．若い衆は鬼ヶ島でもらった生き針を刺したところ娘は生きて戻った[16].

5） 長者の一人娘が大病で，医者も薬も効果がなかった．鳶の話では，娘の病気は長者が家を建てる時大黒柱の下に突っ込んだ蛇の祟りで，大黒柱の下から蛇を掘り出して放つと病気はその日のうちに治るということであった．話を聞いた爺様は長者の家を訪ね，娘の顔を見て，病気は蛇の祟りであることを勿体付けて言い，大黒柱の下に蛇を見つけ大川に放したところ病気はケロッと治った[16].

6） 山の中に鉄という男がいた．ある日，山から仕事を終えてきたら，村の境あたりから美しいあねこがついてきた．その後も仕事の帰りにあねこがついてきた．鉄は動転して，少し頭が

おかしくなった．おながまぁ（巫女）へ行ったら，山の神様がくっついたからだと言って呪ってくれた．山神さまは，三本生えた木に宿るのでそのような木を伐ってはいけないと丁寧に占ってくれたところ，ポカッと背先が軽くなって，山へ入ってもあねこがついてこなくなった[16]．

7） 大黒さんが刈り上げ餅をご馳走になって三回もおかわりをしたので腹痛になった．嫁に大根畑の大根を一本恵んでくれるよう頼んだが姑の目が厳しかった．やっと二股大根を食べさせてもらったところ胃が楽になった[16]．

8） 余目のせんきちの姉は物を言うことができなかった．酒田の八卦おき（易者）は縁のある人と話をするから心配いらないと言った[17]．

9） 本間さまの一人娘が病気で医者にかかっても治らない．仕事をしないなまけ男は河原で寝ていた時に，からすが娘は家の楠の木を伐れば良くなると言うのを聞いた．そこで占い師として訪れ，斧で楠の木を伐らせた．娘はドンドと起きた[17]．

10） 三人兄弟の親が病気になりいろいろ手をつくしてみたが，成田の李を食べさせないと治らないと言われた．兄と二番目の兄は李をとりに行ったが大きなむじなに喰われてしまった．弟はむじなを退治し，李をとって帰り，親に食べさせたらよくなった[17]．

11） 東京のこんの池のあねさまが腹痛で医者にかけても治らなかった．八卦おくのが上手だと評判の爺さんが診て貰いたいと頼まれた．爺さんは困ったが以前助けたことのある稲荷さまに教えられたようにふるまった．大伽藍の家に通され，大神宮さまを拝んで，ここの家に七つの倉があり，真ん中の池ふぐ石の下で蛙と蛇が戦っているので，蛙は海へ，蛇は山へ放すとあねさまの病気は治ると言った．その通りにしたらあねさまの腹痛は治った[17]．

12） おとひめさまが病気になった．病気を治すには猿の生き肝を食べればよいと言われ，浦島太郎をのせたことのある亀がとってくるよう命じられた[18]．

13） 爺はこぶができ痛みと腫れで病んでいた．婆は団子をつくり，爺を山の神へお籠りに行かせた．爺はこぶをなおしてくださいと拝んだ[18]．

14） 殿様は腹痛に苦しんだが，医者にかかっても，どんな薬を飲んでも治らなかった．そこで何でもくれるから治してくれと，お触れをだした．若い衆の家には，薬草7種，高山植物7種を二斗の水に入れ，一合五勺に煮つめて飲んだらどんな腹痛でも止まるという伝家の薬があった．それを持って行って進ぜたらたちまち治った[18]．

15） 旦那衆の親父が病気になったが，医者も物知りも治せず死にそうになっていた．12歳ばかりの子供がからすからそこへ算置きとして行くよう勧められた．水垢離とってチャクチャクと算置きし，家を建てる時，土台で蛇とがまがけんかしており，それを掘り返すと治ると言った．大勢の若い衆が掘り返して大きな蛇とがまを取ったところ，一枚紙をはぐように病気は治った[18]．

16） 後家母はお花をうんといじめた．病気になったふりをしてわか（巫女）に病気のことを聞いた．わかは，10歳になる子供の片腕を食べると治るといった．後家母はお花の両手を切った[18]．

17） 一人暮らしの横着ものは，神さまからもらった扇をひろげてあおいだところ長者の娘は屁が鳴って止まらなくなった．親たちはいろいろ医者に頼んでみたが治せなかった．その横着ものは，女尻なりどめという触れを出して座敷へ行き，扇を逆にあおいだところ屁は止まった[18]．

＜伝　説＞

1） 赤湯の村の米野惣右衛門という人が眼病にかかり近くの薬師様に願かけをしていた．夢に薬師様があらわれ，近いうちに弘法大師がこの地に来られて温泉の湧き出るところを教えてくれるであろうと告げた[19]．

2） 象潟になに不自由のない裕福な夫婦がいたが，子供のないのを嘆き，観音様に願をかけたところ可愛い女の子が生まれた[12]．

3．福島県

＜民　話＞

1） 伊達郡森江野村に早百合という娘がいた．娘は病気になり床についたが，半田沼の水が飲

みたいと言ってきかなかった．半田沼はむかし銀山として有名な半田山の山腹に紺ぺきの水をたたえた底なし沼であった．母親は人をつかわして，魔の沼からくんだ水をのませたところ病気は治った[20]．

2） 子供たちが熱を出しなかなかよくならなかった．神様に拝んでもらったところ，お地蔵さんがでて，子供たちと遊びたかったのに丘の上にまつられてしまったと言った．親たちは丘の上からお地蔵さんを連れてきて一軒一軒まわって歩いた．すると子供たちは元気になった[20]．

3） 病弱な子供につきそった母が湯上の湯にやってきた．子供は日一日と丈夫になっていった[20]．

4） あやめという娘は通ってきた若侍が大蛇とわかり病気になった．父は大蛇の毒気をはらうために娘を五月節句のしょうぶ湯で入浴させた．しばらくすると娘はすっかり丈夫になった[20]．

5） 貧しい若者は母親の病気を治すために高い薬料を出せなかった．そこで八雲神社の神前で祈った．満願の日，そこにある泉の水をくんで飲ませるとよいと荒々しい声で呼ばれた．母親に飲ませたところ熱はさがり，病気はよくなった[20]．

6） 子供たちが百日咳になった．年とった百姓は白蛇さまの怒りをしずめるために水雲神社を建ててお祈りするより方法がないと言った．水雲神社ができるとたくさんいた百日咳の子供も治ってしまった[20]．

7） 琵琶法師は目がわるく相馬の大悲山の薬師さまへきて毎日のように拝んだ[20]．

8） おさよというやさしい嫁は乳が出なかった．薬を飲んでもききめがなかった．山の上の地蔵様に毎晩のようにおまいりした．21日目の晩に，やぶのかげにある泉の白い水をわかして汁を作り，30日間ためしてみよとのお告げがあった．30日たつと乳が出るようになった[20]．

9） 村人に悪病が流行し，老人は苦痛のため死んで行った．日興上人の弟子の日尊という僧が日夜悪病退散の祈祷をしたところいつの間にか悪病は消え失せた[20]．

10） 開拓した一人の男は視力が衰えまったく見えなくなった．名医に2年も通ったが効き目がなかった．田んぼの中で傷だらけになっていた地蔵さまは，堂を建てて自分をまつり，あまざけを供えるがよいと言った．お堂を建てて安置し，毎日あまざけを供えて参拝したところ目が見えるようになった[7]．

11） 江川長者の常姫は床についたまま痩せ細っていき，明日をも知れぬ命となった．長者夫婦は医者，加持祈祷，薬，阿弥陀如来とあらゆる手を尽くしたが少しも治らなかった．乳母の曽根は姫に何かおっしゃりたいことがあったらお話くださいと言った．姫は，法用寺参りの時，輝くばかりのよい男に会い，恋しくてたまらなかったと言い，うれしそうに微笑んで目を閉じた．長者夫婦は一人娘を亡くした[7]．

12） 京都の禁裏様が病気になり明日をも知れぬ重体となった．医者も薬も効果がなかった．からすのおしゃべりを聞いた男は易者のかっこうをして禁裏さまの館に出かけた．呪文を唱えるふりをして，この家を建てる時，屋根に白蛇，軒にナメクジ，土台の下に蛙を敷き込んだので，それを取って鴨川に投げればすぐ治ると言った．その通りにしたところ病気は治った[7]．

13） 竜宮のお姫様が得体のしれない病気になった．医者も薬も効果がなかった．その後来た医者は，猿の生き肝の汁を飲ませれば治ると言った[21]．

14） 都のお大尽様の娘が年寄った婆一人連れて川を渡り，足を痛めて座っていた．若い男が足を洗って，よもぎの葉をこねくりまわして，のばして，ほぉで縛って，負ぶって家へ連れてって飯を食わせた[21]．

15） 一人娘がいて具合がわるくなった．行者に拝んでもらったら，寿命だと言った[21]．

16） 姑が嫁の屁で吹き飛ばされて腰をうち，湯治に行った[21]．

＜昔　話＞

1） お爺さんとお婆さんには子供がなかった．神様にお願いしたら一寸法師を授けられた[22]．

2） 美人の娘は汚い婆のように見える婆皮をかぶって大家の女中に雇ってもらった．ある晩，風呂からあがって婆皮を脱いで自分の部屋にいた．大家の息子はその姿を見て病気になった．

表 1　病人あるいは悩める人

身分の高い人 天皇，殿様，奥方，家老， 姫の母親，姫，大黒様	16 例
富裕層 長者，長者の家族，夫婦，娘	23 例
一般人 老爺，老婆，姑，父，母，継母， 親，夫婦，兄，姉，男，嫁， 女房，娘，村人，法師，白拍子， 子供	38 例

表 3　効果がなかった治療歴

担当者	
医者	14 例
物知り	1 例
方法	
色々と手を尽くした	3 例
薬	9 例
神仏に依頼	4 例

祈祷をしてもらったところ，この家の中にいる者を嫁にもらえば治ると言われた．この女中に嫁になってもらい幸福に暮らした[22]．

3）　金持ちの一人娘が病気で死にそうになった．20 歳ばかりの小僧が鬼にもらった針を刺した．娘は 1 月ばかりでよくなった[22]．

＜伝　説＞

1）　阿倍貞任は少なからず傷を負い，全身に疣が出来ていた．随行の薬師が清水を汲んで体につけた．傷ばかりでなく疣も治った[23]．

2）　兵衛国康という長者夫婦は子のないのが悩みであった．白河の関山万願寺に籠って祈願をこめた．満願の日に観世音菩薩が枕がみに立ち，長者夫婦の懇願によって申し子を授けることになり，女の子が誕生した[23]．

3）　長者の一人娘，玉依姫が重い病気にかかった．八幡宮に流鏑馬を奉納すれば全快するとの託宣があった．若者が奉仕を申し出，装束をつけた凛々しい姿を垣間見た姫は若者にすっかり心を奪われた．若者が流鏑馬を奉納して帰ると姫の病は恢復し，姫の頼みで若者はそのもとに通うようになった[23]．

4）　茶屋の婆さんは眼が悪かった．茶屋で親切にもてなされた僧は，不動尊を一心に念じて清水で眼を洗うがよいと言った[23]．

5）　都のさるお屋敷のお姫さまは生まれつき病弱で言葉を語れなかった．乳母は腹の中に宿る水子の生き肝を進ずるのが一等の効き薬だと言われ，旅の女房を殺し，赤子の腹をさき，肝をつまみ上げた[23]．

6）　近所のじいさまが長患いで伏せっていた．占い師さまは，鮫の肝を飲ませればたちまち癒えると言った[23]．

表 2　症状あるいは悩み

病気，大病，重体，死亡，詐病	29 例
全身的症状 頭がおかしい，倒れた，寝込んだ， 痩せ細った，発熱，うなった， 百日咳，傷，難産，疣，病弱， 恋わずらい	17 例
局所的症状 眼が見えない，腹痛，喋れない， 口が歪み唇ただれた，足を痛めた， 肋骨を痛めた，こぶの痛みと腫れ， 腰の打撲，傷の痛み，排膿， 乳が出ない，屁が止まらない	22 例
子供がいない	7 例
その他 子供が 13 歳になると死ぬ 丈夫な男の子が欲しい	2 例

Ⅱ．収集した症例の分析

病人あるいは悩める人を**表 1** に示す．一般人がもっとも多かった．

症状あるいは悩みを**表 2** に示す．局所的症状の中には，「口が歪み唇ただれた」のような口腔外科的症状も含まれていた．

効果がなかった治療歴について**表 3** に示す．担当者では医者がもっとも多かった．方法では薬がもっとも多かった．

治療担当者あるいは相談者について**表 4** に示す．宗教等関連者と一般人が大半を占めていた．

診断法あるいは本人の願い成就法について**表 5** に示す．祈祷がもっとも多かった．医学的方法で

表 4　治療担当者あるいは相談者

医療関係者	5 例
医者，薬師	
宗教等関連者	24 例
僧侶と行者，巫女，八卦置き， 　占い師，祈祷師，神主，陰陽師， 　偽の八卦置き・占い師・易者	
一般人	23 例
若者，爺様，父，母，息子，娘， 　許嫁の娘，姫，弟，乳母，武士， 　村人，百姓，旅人，ほら吹き， 　子供	
その他	2 例
地蔵，山鳩	

表 6　病気の原因あるいは病名

祟り		12 例
動物	先祖，らい病の兄， 蛇，蛙，ナメクジ，猫，	
植物	大木の精	
宗教	地蔵，山の神	
呪い		1 例
後家母		
医学的		10 例
らい病，眼病，旅の疲れ， 　二階から落ちた，娘恋しさに泣いた， 　魚を食べ腹の中に虫がわいた， 　餅の食べ過ぎ，恋わずらい		
その他		3 例

は脈診が 1 例認められた．

病気の原因あるいは病名を**表 6** に示す．医学的原因にくらべ祟りがやや多かった．

治療法を**表 7** に示す．医学的療法がもっとも多く，次いで宗教的療法であった．

治療効果を**表 8** に示す．大半が成功例であった．

考　察

病人あるいは悩める人では一般人がもっとも多かったが，民話，昔話，伝説が民衆生活を中心としていることによると考えられる．

症状あるいは悩みでは「口が歪み唇ただれた」の症例が 1 例認められたが「らい病」による症状

表 5　診断法あるいは本人の願い成就法

宗教的方法	
祈祷	19 例
占い	4 例
八卦	2 例
医学的方法	
脈診	1 例

表 7　治療法

医学的療法	37 例
飲む	
泉の水，沢の水，山椒の実， 　　煎じた蓬，赤い実， 　　南天の実のようなもの，鮫の肝	
食べる	
梨，猿の生き胆，イカリ草， 　　桃，大根，李，水子の生き肝	
身体につける	
清水	
伝家の薬	
薬草と高山植物	
湯治，菖蒲湯	
針を刺す，足を縛る	
看病，安心させた，娘による看病， 　嫁にもらう，男に心を奪われる， 　婿にした	
宗教的療法	
宗教的行動	16 例
祈祷，祈願	
観音様，不動尊，仁王尊，天 　　堂を建て地蔵を祀る	
神社を建てて祈る	
経を唱えて目を撫でる	
地蔵と遊ぶ	
治癒の修法，占い	
取り子	
祟りを除く方法	7 例
らい病の兄を殺す	
蛇，蛙，ナメクジを放す	
大木，楠の木を伐る	
呪いを除く方法	1 例
釘を抜く	
治療せず	1 例
我慢した	
その他	2 例

表 8　治療効果

良くなった	48 例
治癒	41 例
命を取り留めた	4 例
難を逃れた	1 例
無事出産	1 例
幸せになった	1 例
子供の誕生	9 例
死亡	1 例

であった．

効果がなかった治療歴では「医者」がもっとも多かった．医者が対応できなかった理由としては，現代のような診断法や治療法が確立していなかったことが大きな要因であろう．

治療担当者あるいは相談者では宗教等関連者と一般人が大半を占めており劣悪な医療環境の実態を具体的に示している．宗教等関連者の中で多かったのは僧侶と行者が7例で巫女が5例であった．

僧侶の医療への関与については，平安時代末期に成立した説話集である今昔物語集にも記述がなされている．1例をあげると次のようである．寺の僧が両眼とも盲目の女を薬師の像に向かわせ礼拝させた．二日後に仏の胸から桃の脂のようなものがしたたり出て，女がそれを食べたところ両眼が開いたということである[24]．

行者は修験者，山伏とも言われ，山形県の中央部を北から南へと連なる出羽三山，すなわち羽黒山，湯殿山，月山一帯では修験道が発達してきた．久保田展弘によれば，日本の修験者山伏の修行は，のちに里人との，俗世との関わりがあることを前提として実践される．苦しみを抱き，切実な願いをかかえた人々の前にこそ，修験者は現れるのであった[25]．そして，宮本袈裟雄によれば，加持祈祷を旨とする修験者の宗教活動は，宗教家としての立場とともに医者としての役割を果たしていたのである[26]．

巫女について桜井徳太郎によれば，病魔の退散や息災延命の祈祷をしたり，ウラナイ・マジナイ・ハッケなどを行うとともに，死霊の口寄せを実施する口寄せ巫女の分布は，日本列島の両端部，すなわち南の奄美群島・沖縄列島と，北の東北地方である[27]．第一報で報告した青森県，岩手県，秋田県においては巫女の活躍が目立った．今回も一定の修行期間に師資伝授を受け，神つけの儀式などの入巫儀礼を経た巫女であるワカ，オナガマと成巫過程で巫病と呼ばれるような心の病や発作を伴う神秘体験を持つ巫女であるカミサマが含まれていた[28]．

診断法あるいは本人の願い成就法では，脈診が1例認められた．これは医者が出産に立ち会い，ふとんの中の娘の手をとって，まず脈を診たという症例であるが，伝統医学における脈診と想像される．

病気の原因あるいは病名では，祟りが医学的原因よりやや多く，当時の人々が祟りに対して強い恐怖感を有していたことを表している．

治療法では医学的療法，宗教的療法，治療せず，その他に分類した．医学的療法のうち，「飲む」，「食べる」，「身体につける」，「伝家の薬」は民間薬療法と言える．鮫の肝や猿の生き肝は蛋白質補給を含めた薬効を期待したものであろう．伝家の薬は薬草7種と高山植物7種を二斗の水に入れ，一合五勺に煮つめて飲むというもので腹痛に使用していた．

「湯治」，「菖蒲湯」，「針を刺す」は物理的療法であり現代にも通じる治療法である．

「看病」，「安心させた」，「娘による看病」，「嫁にもらう」，「男に心を奪われる」，「婿にした」などは心理療法に属し，これらも現代医療に通じる治療法である．

宗教的療法では「宗教的行動」，「祟りを除く方法」，「呪いを除く方法」に分けられた．「宗教的行動」のうち「祈祷・祈願」は現在でもごく自然に行われている行為であり，心の安らぎとなる一種の心理療法である．

治療効果では1例を除きすべてが成功例である．それは成功例が民話，昔話，伝説に取り上げられたためであり，その陰には病気に苦しんだ多くの人々が存在したことが想像される．

まとめ

1．宮城県，山形県，福島県の民話，昔話，伝説に記述された病気治療例を収集し分析した．

2．収集した77例において病人あるいは悩める

人では一般人がもっとも多かった.

3．症状あるいは悩みではらい病による口の歪みと口唇のただれが含まれていた.

4．効果がなかった治療歴では医者の治療と薬がもっとも多かった.

5．治療担当者あるいは相談者では宗教等関連者と一般人が大半を占めた.

6．診断法あるいは本人の願い成就法では祈祷がもっとも多かった.

7．病気の原因あるいは病名では医学的原因にくらべ祟りがやや多かった.

8．治療法では医学的療法が宗教的療法より多かった.

9．治療効果では成功例がほぼすべてを占めた.

以上の結果より，現代のように進歩した医療技術が存在せず，医療担当者の数も少なく，健康保険制度も確立していなかった時代において，人々は病気になった際，医者の代わりに僧侶や巫女などをはじめとした宗教等関連者を頼りにしていたことが明らかになった．治療効果については大半が成功例の報告であるため実態は明らかではない.

謝　辞

資料の収集にあたりましては，国立国会図書館，国立歴史民俗博物館，東京都立図書館，千葉市図書館にて各種の書籍および雑誌を閲覧させていただきました．こころより御礼申し上げます.

文　献

1) 鈴木長明：東北地方の民話・昔話・伝説に見られた病気治療例の収集と分析　第一報：青森県，岩手県，秋田県，日本歯科医史学会会誌，第30巻，378-387，2014.
2) 三崎一夫，他：北海道・東北の民間療法，明玄書房，東京，昭和52年1月，137-171，201-235，237-273.
3) 山田野理夫編：日本の民話4宮城篇，未来社，東京，昭和53年9月，13-18，234-236，268.
4) 東北農山漁村文化協会編：日本の民話4みちのく篇，未来社，東京，昭和53年9月，403-409.
5) 及川儀右衛門編：日本の民話別巻，未来社，東京，昭和53年7月，24-27，57-58，519-520.
6) 加藤瑞子，他編：新装日本の民話2東北（一），ぎょうせい，東京，平成8年6月，63-65.
7) 矢島美智子，他編：グラフィックカラー日本の民話3東北Ⅱ，研秀出版，東京，発行年月日記載なし，53-54，81-83，102，116-117，119-121.
8) 佐々木徳夫編：陸前昔話集，岩崎美術社，東京，1978年12月，33-37，57-60，99-101，130-137，298-300，303-304.
9) 山本明編：陸前伊具昔話集，岩崎美術社，東京，1981年4月，98-100，246-249.
10) 佐々木徳雄，他編：宮城の伝説，角川書店，東京，昭和54年11月，21，48，66，69，153-160.
11) 野村純一編：日本伝説大系第二巻中奥羽，みずうみ書房，東京，昭和60年10月，146-148，242-243，282-283.
12) 木原康夫，他編：日本の伝説2東北，教育図書出版山田書院，東京，発行年月日記載なし，86-87，104-105.
13) 沢渡吉彦編：日本の民話出羽篇：未来社，東京，昭和53年9月，337-340，356-357，433-437，468-469，493-497.
14) 武田正編：新装日本の民話3東北（二），ぎょうせい，東京，平成8年6月，186-196.
15) 佐藤義則編：羽前小国昔話集，岩崎美術社，東京，1976年4月，77-79，90-94，108-109.
16) 野村敬子編：真室川昔話集，岩崎美術社，東京，1977年7月，21-23，173-184，222-225，265-267.
17) 清野久雄編：庄内昔話集，岩崎美術社，東京，1984年5月，108-112，116-118，169-171，228-239.
18) 武田正編：羽前の昔話，日本放送出版協会，東京，昭和48年5月，32-34，36-39，71-73，123-126，126-131，233-236.
19) 須藤克三，他編：出羽の伝説，角川書店，東京，昭和51年3月，20.
20) 片平幸三編：日本の民話3福島篇，未来社，東京，昭和53年9月，48-49，249-251，252-254，276-278，279-281，310-313，347-349，416-417，423-425.
21) 吉沢和夫，他編：遠藤登志子の語り―福島の民話―，一声社，東京，1995年6月，152-160，213-216，313-314，361-362.
22) 柳田国男編：福島県磐城地方昔話集，三省堂，東京，昭和49年2月，5-6，16-17，30-31.
23) 石川純一郎，他編：福島の伝説，角川書店，東京，昭和55年4月，19，22，80-82，124，146-152，153-157.
24) 馬淵和夫，他校注・訳：今昔物語集1，小学館，東京，1999年4月，198-200.
25) 久保田展弘：修験の世界，講談社，東京，2005年3月，268-273.
26) 宮本袈裟雄：里修験の研究・続，岩田書店，東京，2010年10月，46.
27) 桜井徳太郎：日本のシャマニズム上巻―民間巫女の伝承と生態―，吉川弘文館，昭和49年11月，587-588.
28) 神田より子：東北地方における巫女の祈祷と儀礼，歴博，146巻，6-9，2008.

著者への連絡先：鈴木長明
〒261-0004　千葉市美浜区高洲1-14-7-105
TEL：043-278-3367